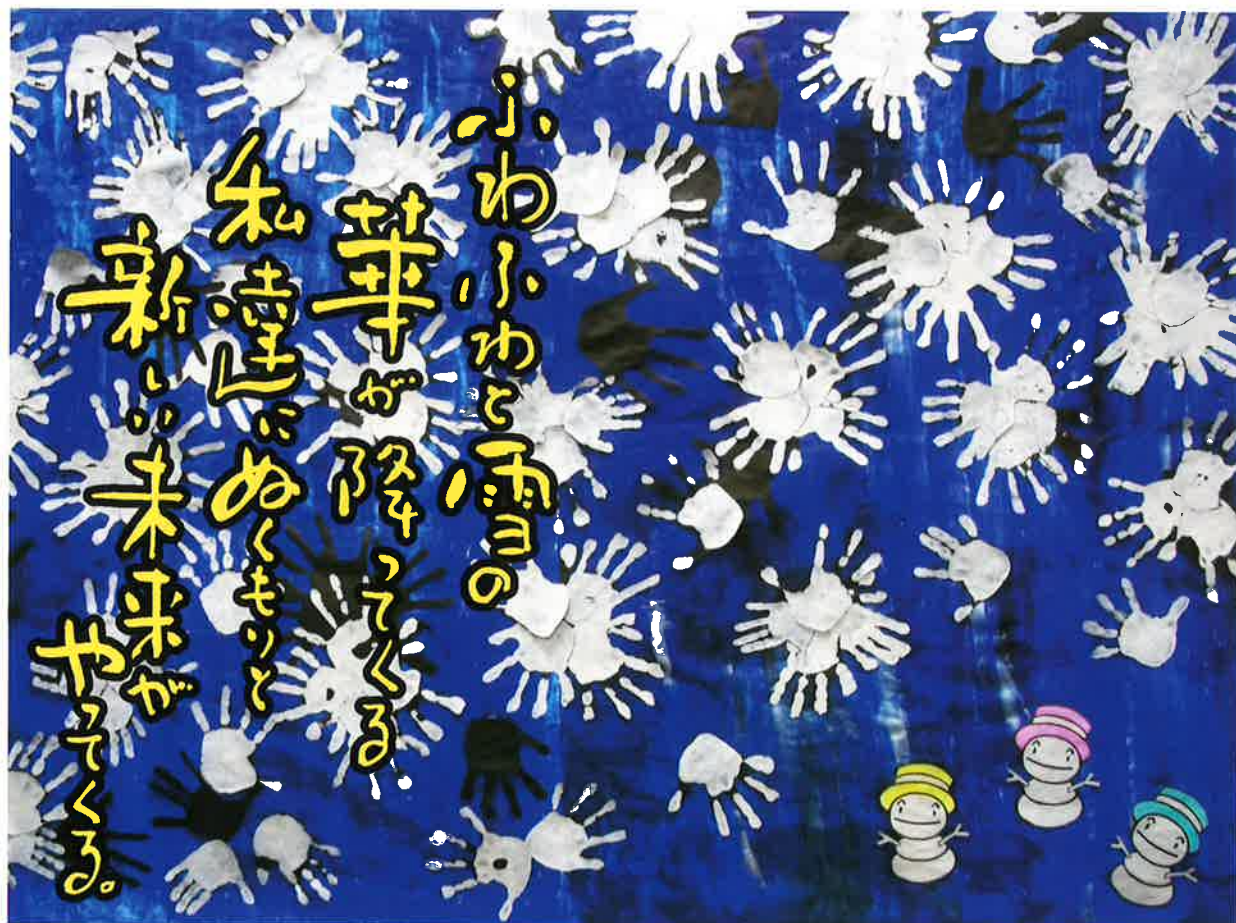


さくらだより

第24号

2013年1月25日

社会福祉法人京都老人福祉協会 京都市伏見区深草大亀谷東古御香町59番地・60番地 TEL.075-641-6622 FAX.075-641-6633
<http://kyoro.or.jp/>



CONTENTS

新年のあいさつ 2

『京老 創立55周年記念 法人職員懇親会』
 ～Kyoro Go Go!～ 2

施設のおんしんを
 在宅へお届けします 3

特集

きっちゃん「さくら」の

地域支援活動 4

伏見エリア

東高瀬川センター

「会議と黄色いカラーコーン」 5

銭湯へ行こう！ 6

カラオケに

行ってきました。 6

深草エリア

地域の皆様に

支えられて 7

醍醐エリア

春日丘センターの予防ライサービスの
 見学に行ってきました！ 7

うづら保育園

二元気に走り回る

子ども達 8

リレーコラム

「食の未来をいじ」 8



ハートで
 ぬくもりと安心を
 お届けします
 京都老人福祉協会

新年の「挨拶」

京都老人福祉協会 副理事長

三代 修

昨年は、介護保険制度の改正もあり、変更への対応や新しいサービスへの準備の年でした。「住み慣れた地域で安心して過ごしたい」という当たり前の希望を実現していく仕組みとして地域包括ケアシステムが推進されていますが、この理念は高齢者分野のみならず、障がい者や子育ての分野でも共通した価値観となってきました。「どうい地域社会を実現するのか」という問いの中では、個別の福祉分野の壁は必要ないように思います。今年、サービス付き高齢者住宅や定期巡回随時対応型訪問介護看護の事業にもしっかりと対応してゆきたいと考えています。

さて、福祉・介護、医療等の分野では、サービスを提供する「ひと」そのものがサービスの質を決定づけると私たちは考えています。「あの人の笑顔がすてきだね」「あの人の言う事だったら安心できる」とご利用者様からお褒めの言葉を頂くたびに照れくさくもあり誇らしくも思います。日々最善の努力を惜しまない事が私たちに課せられている事なのだと思ひ締め、思いも新たにしております。

介護労働安定センターの昨年の調査によれば、業界での介護職員の離職率は年20%を依然として超えているようです。大量離職と大

量採用を繰り返しているという不健全な業界という事になります。新卒正規の介護職員の場合でも、採用三年後の離職率は4割に迫ると言われています。

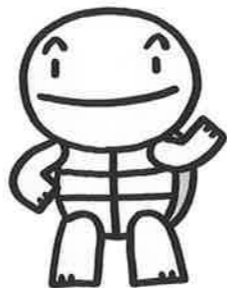
振り返って、私たちの職場はどうでしょう。年間離職率は10%を若干下回り、まあまあかと安堵しながらも、夢も誇りも感じる職場でありたいと切に思っています。

今年目標、子育て世代の応援をします。やる気のある高齢者の雇用も積極的にします。自分のすぐ横でハンディを持って仲間ががんばっている職場環境もいい。仕事と家庭のバランスがとれた働き方も大事だろうと思います。

人は自分の事が大切にされているという実感が持てる時に他の人にも優しくできるのだと思うのです。温かい風が感じられる京都老人福祉協会でありたいと思っています。



平成二五年二月スタート！ 施設のあんしんを 在宅へお届けします



「地域包括ケアシステム」という言葉を耳にされたことがありでしょうか？

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを切れ目なく提供する「地域包括ケアシステム」は、高齢者の生活に必要な仕組みであり、その基礎的なサービスとして、平成二四年四月『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』が創設されました。

高齢者が、ひとり暮らしやご夫婦だけの暮らしになり、医療や介護が必要になっても自宅で暮らし続けるための環境整備は、生活の質を高めるためにも大切なことです。当法人におきましては四月より準備を始め、今年一月から事業を開始することになりました。

この『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』は、二四時間安心して在宅での生活ができるように、昼間も夜間も「定期的な訪問」や、ご利用者からの連絡に応じた「随時の訪問」、また必要に応じて「訪問看護」を組み合わせたサービスです。ご利用者宅に置く、呼び出し用端末とペンダント型通報機で、ボタンを押すだけでオペレーターと通話ができます。また、計画作成者や看護師が定期的に

訪問し、お体のご様子やご希望などを伺い、ケアマネジャーに相談をしながらサービス提供をします。このサービスにより、施設での介護が必要とされていた方が、ご自宅で施設と同じように安心して介護サービスを受けることが可能になりました。利用料金は要介護度別の月額制になります。

例えばどんな時？

★介護だけでなく急な体調の変化時が不安。
介護だけではなく、お体の様子も定期的に看護師が伺います。体調の悪い時などはすぐにプラン変更をし、必要時に看護師が伺います。

★退院が決まったが、一人で自宅へ戻るの不安。

退院後の生活は、ご本人もご家族も不安です。医療と連携しながら、看護師や介護スタッフが定期的に訪問し、お体の状態を確認しながら普段の生活に戻るお手伝いをします。



ケアコール端末

気配や物音もキャッチする高感度な室内設置端末本体。



安心できるハンズフリー

ペンダント型端末

ここを押すと本体を通じてオペレーターと会話が出来ます



ご利用方法

要介護1以上の方にご利用いただけます。担当のケアマネジャーにご相談いただくか、直接「あんしんサポート伏見」へご連絡ください。

TEL 645-6564

『京老 創立55周年記念 法人職員懇親会』

～Kyoro Go Go!!～

京都老人ホーム 1957(昭和32)年7月開設
11月28日、京都センチュリーホテルにて『京老 創立55周年記念 法人職員懇親会』が執り行われました。

当初の予想を上回って、242名の職員と11名のお子様に参加していただき、会場はあふれんばかり！

サークル紹介ではこの日のために準備した楽しい発表をしていただきました。

他にも職員交流のための『名刺交換ゲーム』や、豪華景品をかけたビンゴゲームなど、工夫をこらした企画に大いに盛り上がり、職員の親睦が深まる楽しい懇親会になりました。



ビンゴの1等賞!!
液晶テレビが当たりました!



ヨガのポーズを披露





厨房会議

体操教室
初回冒頭風景
これから月2回の教室が始まります。体操を始める前に今回のメンバーの自己紹介や、注意事項の説明をします



＜東高瀬川センター厨房＞
デイサービスとショートステイのお食事を作っています。
4名のスタッフが勤務



＜京都老人ホーム西館厨房＞
さくら西館の地下にある厨房です。特養のお食事と配食サービスのお弁当を作っています。



＜春日丘センター厨房＞
春日丘センターはサテライトで一番最初に出来た厨房です。
5名のスタッフが勤務



＜京都老人ホーム本館厨房＞
きっちゃん「さくら」の中で一番古い厨房です。
養護、法人の各事業所、職員のお食事を作っています。



きっちゃん「さくら」の 地域支援活動

総勢37名のスタッフが毎日1600食の利用者様のお食事を作っています。

東高瀬川センターの1階には普段使用していない部屋があります。空き部屋の使い道で思いつくものは会議です。各職員が出席し、多種多様な会議が行われています。地域包括支援センターを擁する高瀬川センターでは、職員だけでなく地域の方々の会議も行われています。また、会議以外では地域の方向けに「体操教室」や「口腔機能向上教室」(伏見地域介護予防推進センター主催)や地域のサークル活動(名称・エスポアール)に利用しています。地域の方々が利用される時に、活躍するのが黄色いカラーコーン。駐車場には伏見センターの職員がスクーターを停め

★見エリア 東高瀬川センター 「会議と黄色いカラーコーン」

ていますが、地域の方が集まってこられる日は「駐車禁止」の標識の代わりにカラーコーンを置きます。前の道から駐車場を隔て、掃き出し窓から出入りしていただき、土足で上がっていただけるように準備しています。ボランティアに来ていただいている方の作業室や控室などにも利用し、使い道が決まっている日もあります。空き部屋をそのまま放置しておくのではなく、今後も多種多様な会議や地域の皆さんの交流の場として活用できれば良いと考えられています。



作品 (地域サークル)

「紙コップ釣り」

さおの先に紐、紐の先に紙コップが逆さまについています。それを、少し離れた所に並べた紙コップにかぶせ「トン！」と叩きます。すると、紙コップの間にある空気が抜け、紙コップが釣れるという遊びです。紙コップには数字がかいてあり、合計数をきそいます。(その他、隔週定期的に活動されているので作品も沢山あります)
地域サークル・エスポアール



これからも地域支援活動を通して、地域の皆様と触れ合う機会や地域一体となった町づくりができるように、そこに住んでいらっしゃる皆様のニーズに合った支援やサービスができるように、今まで以上に取り組んでいきたいと思っています。



きっちゃん「さくら」では、養護、特養、在宅・デイ・配食サービスへの食事提供を、主に行っておりますが、地域支援活動にも力を入れて取り組んでいます。

1. 藤城学区社協様が藤城学区内に住んでおられる、介護保険における「自立」認定者の方を対象にした支援策として「健康すこやか学級」を行っております。工作やゲームなどのレクリエーションを通して、利用者内やボランティアの方々とは触れ合う場です。私たちは、その中の「昼食」を提供させていただきます。季節感を意識したお弁当やバイキング料理、健康や料理のちょっとした知識など、ユーモアあふれる楽しい時間を過ごしていただけるように工夫をしております。その他に、料理教室を行ったり、手作りパン・デザート提供、地域の方が集まって行われるミニ食事に配食サービスのお弁当をお届けしています。
- また、他学区社協様とのつながりも深く、醍醐の池田学区で行われる「健康すこやか学級」での昼食も提供させていただきます。
2. 稲荷の家ほっこりで行われるご家族を対象とした集いがあります。定期的に手作りのお菓子や飲み物を提供する「出張喫茶」や「爆製教室」、「パン教室」を開いています。
3. 地域協定の避難訓練や炊き出しを行っており、災害時に備えて定期的に活動しています。

このように、きっちゃん「さくら」では、幅広く地域の皆様とつながっています。

～地域の方の声～

「一人暮らしでお鍋料理はほとんどしません。具沢山のお鍋を皆で囲むと身も心も暖かくなります。きっちゃんさくらさんに感謝感謝です。合掌」
「一人暮らしで煮物等を作ると、何度か続けて食べなければなりません。11月の秋の栗り弁当、10種類以上の旬の食材が盛り沢山で、本当にご馳走さまでした。手打ちそばも美味しかったです。この歳で打ち立てのそばを初めて食しました。ありがとうございました。」
「12月のクリスマスバイキング楽しみにしています。今からワクワクしています。欠席したくないので風邪等ひかないよう、健康に気をつけています。」



深草エリア

地域の皆様に支えられて…

稲荷の家ほっこりは1階で小規模多機能型居宅介護、2階で子育て支援活動拠点事業を行っています。平成19年開所の稲荷の家ほっこりは今年の6月で5周年を迎えました。まだまだ稲荷の家ほっこりについてご存じでない方も多いと思います。そこで、稲荷の家ほっこりについて行事の報告などを交えていくつか紹介させていただきます。

6月、ささやかながら5周年記念式典を開催しました。龍谷大学邦楽部の皆さんに演奏をしていただき、お年寄りはもちろん、地域の皆さんやつどいの広場を利用されている子供さん達も皆さん荘厳な音色に聞き入っておられました。

10月、同じ学区内の深草北部地域包括支援センターと合同で二日間にわたって地域感謝祭を行いました。シャンソンコンサートや法人内の三線サークル「なんくるないさー」による演奏、様々な世代で対決するかるた大会など大盛況でした。



地域感謝祭「シャンソンコンサート」



稲荷の家ほっこり「5周年記念」



サークル活動「フラワーアレンジメントサークル」

現在、稲荷の家ほっこりではいくつかのサークル活動を行っています。

- ・フラワーアレンジメントサークル (隔月第2月曜実施)
- ・クラフトサークル (毎月第4月曜実施)
- ・歌サークル (毎月第1月曜実施)

これらのサークルは稲荷の家ほっこりを利用されている1階の高齢の利用者さん、2階のつどいの広場を利用されている親子さん、地域の皆さんが参加されています。そしてどれも地域の住民の方や団体から講師の依頼をいただいて活動に繋がった取り組みです。この他にもママさんに講師になっていただくサークル活動を現在計画中です。

このように地域の方々のお力添えがあって様々なことにチャレンジできています。6年目の稲荷の家ほっこりもよろしくお祈りします。

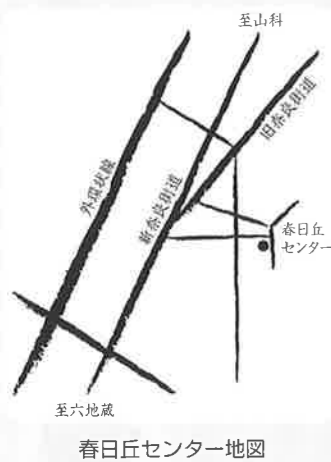
醍醐エリア

春日丘センターの 予防デイサービスの 見学に行ってきました！

小栗栖の家ほっこりのさくらハウス(サ高住)に入居されている方々の中には外部のデイサービスや法人の事業所を利用されている方々がおられます。なかでも春日丘センターの予防デイサービスの話を時々聞かせていただいているなかで、「予防デイサービスってどんな所で、どんな方が来られているのだろう」と思い、今回、見学にお邪魔させていただきました。

春日丘センターは、デイサービス、ショートステイ、居宅介護支援センターの三つの事業所となっております。予防デイサービスは、要支援1〜2の方対象で、週に1〜2回、春日丘からの送迎車を利用されています。ほっこりと落ち着く部屋の広さで、だいたい一日平均9〜10人程度のご利用で、日中の過ごし方はみんなで作品を作ったり、職員さんと買物ツアーや季節の外出を楽しんだり、気の合うお友達とお話をしたりしておられ、明るく笑い声が元気に響いています。

利用者さんとの関わり方やレクの取り組み方など改めて見直すことができ、小栗栖の家ほっこりでも、今回の見学で知ったこと、感じたことを生かせるように、日々皆さんと接していきたいと思えました。



銭湯へ行く！



ある日、京都老人ホームの侯野さんが、「友人がやっていた銭湯があった、昔よう行ってたんや。」と教えて下さいました。

友人がされていたという銭湯はもう無くなってしまっていたのですが、せっかくの希望なので、楽しんでいただきたいと思います！と思い、男性職員に声を掛けると、「いいじゃないですか！ぜひ」と即答。こうして、侯野さんと男性職員2名との銭湯へのレクリエーションを計画しました。

侯野さんは銭湯に行く事を何日も前から楽しみにされていたようで、銭湯の話をする、いつも嬉しそうな表情をされていました。いざ当日…。久しぶりに車の助手席に乗ってドライブを楽しまれ、昔ながらの銭湯へ到着。「たまには僕らを洗ってみますか？」と職員が提案すると、「よっしゃー!!!」と職員の背中を「ゴシ



ゴシこすって下さり、背中が流し合いもされました。

浴槽にも一緒につきり、古き良き銭湯の雰囲気を楽しみました。帰りの車でも「次も頼むな！」と言われ、次の銭湯をどこにしようか…という話で盛り上がりました。ホームに帰って来られてからも、嬉しそうな表情をされており、銭湯レク大成功です。

翌日、男性職員に会うなり、「昨日はおーきに。」と侯野さんから言ってお下さり、計画して本当に良かったと実感しました。これからも利用者の方の希望に添えるようなケア出来るように、職員一同取り組んでいきたいと思えます。(京都老人ホーム)



カラオケに行ってきました。

10月23日午後より、養護利用者さん7名と職員2名で醍醐のカラオケボックスに行ってきました。参加者の方には、事前に歌いたい曲をお聞きし、当日、順番に得意の歌を披露していただきました。皆さんカラオケは慣れたものという感じで、「影を慕いて」「銀座カンカン娘」「大阪しぐれ」「憧れのハワイ航路」「星影のワルツ」等々、次々に懐かしい流行歌をリクエストされ、とても上手に歌って下さいました。また、おいしいコーヒーやジュース、パフェをいただいたり、歌に合わせて、タンバリンやマラカスを鳴らしたり、ダンスをしたりして、楽しく盛り上がりました。参加者の方からは、「時間が経つのがあっという間だった。」「よかった。また行きたい。」「歌ってスッキリした。」等の感想が聞かれ、大変、満足された様子でした。

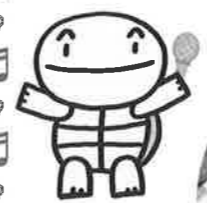
今後も、養護では、たくさんの方に参加していただけるよう施設内外の楽しい企画を考えていきたいと思っています。



「あばれ太鼓」を熱唱中



「憧れのハワイ航路」でみんなでハワイ気分



しっとり「珍島物語」



「元気に走り回る子ども達」

うづら保育園 垂水 祥子

うづら保育園では、健康な体作りのため、朝の体操が終わってから年長児と年中児が疏水まわりを元氣いっぱい走っています。夏の暑い日は熱中症の危険があるので行わない日もありますが、ほとんど毎日取り組みます。

園庭が狭いので目の前を流れる疏水のまわり（1周約200m）を利用し、坂道や橋、階段等、決して平坦ではない道を頬を真っ赤に染めながら一生懸命走る子ども達です。幼児にとっては長い距離で、4月当初は「もうはしれへん」としんどさに思わず泣いてしまう子や、すぐに歩いてしまう子もいました。しかし毎日走り続けることで日に日に走る姿はたくましくなり、「きょうはマラソンしいひんの？」「ぜったいいちばんになるし！」と走ることに意欲を持ち、楽しんで取り組む姿が見られるようになります。そしてマラソンを通じて体力が付き、健康な体になり、毎月の園外保育での山登りもすっかりした足取りで登りきることが出来ます。

また、持続力や頑張る気持ちを保持することができ、クラスみんな

走ることにより、転んだ友達を助けてあげたり、遅れている友達に「がんばれー」「もうちょつとやで！」と応援したり手を引っ張ってあげる姿が見られ、精神面での大きな成長を感じる事が出来ます。

4月当初は1周から始めますが、3月には年長児は5周、年中児は3周を走り、今まで頑張ってきた集大成として「マラソンの日」に参加します。

1年間でひと回りもふた回りも成長した子どもたちの姿を、保護者の方に見ていただき、いつもよりもたくましく大きく感じる子ども達の姿に、ただただ感動するばかりでした。

健康な体を作り、走る事を楽しむ気持ち、転んで悔しい気持ち、友達を想う気持ちが育ち、一人ひとりの成長を感じる事が出来るマラソンを、これからも続けていきたいと思います。



「食で出来るんじゅ」

きょちん「さくら」(給食部)部長 瀬戸 実



当法人の給食は、今では社会福祉法人でも少数派の直営で行っています。現在、福祉、医療、学校、工場、会社や学校の寮、宅配弁当等、各業界で食事の委託化が進んでいます。

理由は委託業者の質が高くなっていることや、コスト、人材確保、労務管理、様々なリスクを考えると、委託業者で行うほうがいだろうという経営面の判断もあるでしょう。

直営か委託かどちらがいいのかという事は賛否あると思いますが、私たちが給食に携わる者は食を通して何が出来るのかを考

えるべきだと思います。食事で必要な事は、当たり前前の事ですが、美味しい安全な食事、生命の維持、健康管理。しかし、これだけ行われていればいいわけではありません。

食事は人の心を豊かにするコミュニケーションツールの一つです。生まれてきた赤ちゃんは、母乳を飲んでお母さんと

れあいます。離乳食は成長過程の確認、保育園や幼稚園、学校では友達や先生と一緒に食べる喜び。家庭での食卓も同様で、1日の出来事、明日の話、悩みの相談等の場面になります。年間行事、お祭り等、様々な場面でも役割があります。そして、季節感、流行、地域性等、情報提供としての側面もあります。

人がそれぞれ、その場面で必要とする食事は違います。望んだ環境で望んだ食事をする事が、本当の意味での満足感を得られるのではないのでしょうか。

私たちは1日に1,600食程度の食事を作っています。現実には、一食一食をひとりひとりが望んでいる食事に100%対応する事は非常に困難です。ですが、それに少しでも近づくと夫と努力を続けてきました。これからも、皆で力をあわせ、アイデアを出し合い、様々な事にチャレンジし、「食で出来ること」を追求したいと思